

児童館においでよ！

宮城県児童館放課後児童クラブ連絡協議会 会長
NPO 法人子育て応援団ゆうわ 理事長 齋藤勇介

児童館をご存知ですか？「名前は知っているけれど、どんな場所なのかかわからない」「小学生が放課後遊びに行ける施設？」という認識を持たれている方が多いのではないのでしょうか？「児童館」は本来、0歳から18歳未満までの子どもを対象に健全な遊びを通して、子どもの生活の安定と子どもの能力の発達を援助していく拠点施設です。児童福祉法における児童福祉施設の中でも国内の施設数が保育所に次いで2番目に多い施設で、0歳から18歳までのつながりある児童の育ちに寄り添える唯一の施設であるにも関わらず、世間の認識はまだまだ低いと言わざるを得ない現状です。今を生きる子どもたちは、便利な世の中だからこそコミュニケーション能力の低下など、昔に比べ「生きる力」が失われつつあると言われていています。インターネット等の普及により情報・知識を簡単に得られたりと、機械化・マニュアル化された社会の中で、自分自身で何かを考え行動したり、無理に人と会話をして人と深く関わらなくとも1日を生活出来てしまう社会が目の前に広がっています。それだけに、大人になり自立を余儀なくされ社会に出て壁にぶつかった時、乗り越えることが出来ずに苦しい状況に立たされてしまうことも少なくありません。

少子化と呼ばれる時代は逆を言えば、大人の多い社会。子どもたちの将来のためにと塾やスポーツクラブへ通わせ、安心安全の視点から公園でもボール遊びの禁止など、地域の中でも大人目線での決まり事も多くなり、子どもたちが子どもらしく自由に遊べる「時間」「空間」、そして遊びを通じて築き上げられる「仲間」との信頼関係を育ていく環境が失われつつあると言っても過言ではありません。

そのような現状の中で、社会を生き抜く力を養っ

ていくことが出来るでしょうか？本当の意味で子どもたちの幸せにつながっているのでしょうか？今、目の前にいる子どもたちも、近い将来必ず大人になり、自分の力で社会生活を送っていくことが求められます。その時に礎となる「生きる力」は学校の授業などで教育された知識だけでは培うことは出来ません。遊びを通じて、仲間と笑い合い、認め合うことで喜びや達成感を味わい、時にはケンカをしながら小さな傷や失敗を繰り返すことで、人の温かみを感じ、他者に対する思いやりの心や生きる力を自らの経験を通じて育てていきます。

児童館は子どもたちが学校での学びを活かし、「遊び」を通じて自ら「育つ」ことの出来る環境、子どもが子どもらしくいられる地域の中でホッと出来る「居場所」であることを大切にしています。そして、児童館の職員である児童厚生員は「教師」でも「指導者」でもない、子どもたちの心にいつでも近くで寄り添う「支援者」としてあり続けます。

元気に過ごしたいときには、児童館へいってみよう！笑いたいときは、児童館へいってみよう！居るところがなかったら、児童館へいってみよう！やる事がなかったら児童館へいってみよう！話せる人がいなかったら、わかってくれる人がいなかったら、児童館へいってみよう！がまんできないほどしんどくなる前に、児童館へいってみよう！

今までもこれからも児童館は
子どもたちと共に
歩んでいきます！

